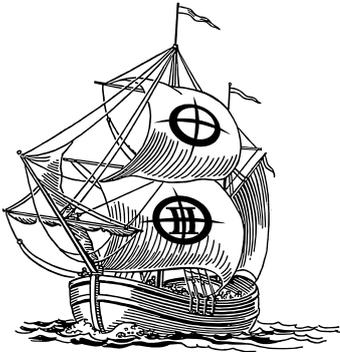


航海日誌



高次脳機能障害・中途障害の方たちの 生きがいつくりの場、社会参加の場

工房「羅針盤」

〒560-0052 豊中市春日町 3-1-41
TEL :06 (6152) 4770
FAX :06 (6152) 4771
E-mail :rasinban@ceres.ocn.ne.jp
URL :http://koubou-rashinban.com

第2工房「羅針盤」

〒561-0808 豊中市原田元町 2-25-21
TEL :06 (4865) 5525
FAX :06 (4865) 5526
E-mail :rasinban1@vanilla.ocn.ne.jp
URL :http://koubou-rashinban.com

「入院中と同じ病室だった男性が一人で泣いていた。何だろうと思っていたら、その日、男性は障害を負って以来、初めて一人で服を着ることができた。その喜びで人目もはばからず、嬉し泣きをしていた。リハビリは感動のドラマです。」

この言葉は、作業所に通う利用者の方が、理学療法士や作業療法士などのセラピストを目標としている学生の前で語った言葉でした。

以前は当たり前のようにできていたことが、病気や事故などで障害を負い、誰かの支援を受けなければできなくなった。誰もが自暴自棄に陥ってしまいます。しかし、リハビリを通して、時間はかかっても再びできることが増える喜びは、まさに生きる希望と自信につながります。

しかし、リハビリは病院の中だけのものではありません。私たちの暮らしの中では、様々な困難を抱えた人がいますが、リハビリのような感動が、地域の中にこそ必要だと思えます。

「ドラマの主役は患者です。そして、セラピストは脇役です。しかし、名脇役が居なければ主役は輝きません。」、前述の利用者の方の言葉です。地域の中では、私たち一人ひとりが主人公です。誰かを支えているつもりでも、実は誰かに支えられている、それが「支え合い」の社会です。だから、自分以外の誰かのことを少し気遣うことだけで、みんなが輝けるのかも知れません。

皆様に支えられながら、工房「羅針盤」は今年で二〇周年を迎えます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



工房「羅針盤」

山河 正裕

まさか、太った人は寒さを感じないんだと思い込んでいませんか。寒いものは寒いんです。



グラスアートに大量注文！！ (株)キリン堂様よりマグカップ 100個の注文！

(株)キリン堂様の歳末の取り組みとして、毎年様々な団体へプレゼントを贈られているそうです。皆様に喜ばれるものを贈りたいと大阪府庁内の福祉の店「こさえたん」で見た工房「羅針盤」のふた付きマグカップを選んでいただきました。

製作に関わられた利用者の方の感想です。

今回グラスアートで大きな注文をいただき、動物柄のマグカップを100個製作させて頂きました。

10月末頃から取り掛かり約3週間程、忙しくも充実感があり、非常に内容の濃い期間であったように思います。

自分自身も週1〜3日へとグラスアートに関わる機会が増え、改めて沢山のことに気づき、とても貴重な経験をさせて頂くことが出来ました。

今回の作業を通して感じたことを一言で表すなら、僕は迷わず「感謝」という言葉を選びたいです。

ご注文をいただいたキリン堂さんや仲介して下さったエル・チャレンジさんをはじめ、作業を一緒に行った利用者さん方など、今改めて振り返ると本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この場をお借りして、心より深く御礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

工房「羅針盤」利用者

渡邊 太志

千里キャンドルロード



「千里ニュータウンまちびらき50周年」事業のひとつである千里キャンドルロードは、今年で第5回目の開催となり、11月3日の文化の日に千里中央公園でおこなわれました。今回も無事参加させていただき、たくさんのお客様に来ていただきました。日暮れ前はボランティアの方や、一般の方などで賑わっており、羅針盤の販売ブースでも足を止めて商品眺めてくれるお客さんが多かったです。しかし、日が暮れてからが本番。カップルや親子連れ、老若男女問わずキャンドルや製菓品などを購入していただきました。最終的に製菓品は完売状態になり、キャンドルも今までにないほどの売れ行きだったり、嬉しい忙しさもありました。

これもひとえに利用者さんや、地域住民の方々との協力があったからこそだと思います。昨年から参加させていただき今年も大成功に終わりました。来年は今年を上回る成果を出していきたいと思っており、利用者さんと一緒にアイデアを出し合い進めていきたいと思っております。

工房「羅針盤」 田中



工房「羅針盤」利用者コラム

私は障がい者である。

歩くときは手押し車を欠かせない。

そんな私の心温まる話。

いつもの様に手押し車を押して歩いてきた。正面に段差がある。かなり高い、とどどん近付いてくる。選択肢として、車道に出てという手もあるが、かなり危険なので、それだけは避けたい、あれやこれやと考えているうちに段差の手前まで来た。「お手伝いしましょうか?」とどこからともなく現れた初老の紳士、その言葉に甘えてお願いをする。

別の日、バスを待っていた。当然だが手押し車を持っている、いくらノンステップバスとはいえ段差はある、バスが来て乗ろうと一瞬躊躇したその時、「お手伝いしましょうか?」と隣でバスを待っていた初老の淑女、その言葉に甘えてお願いをする。

自分よりはるか年上と思われる人達からそっとう行為を受けると複雑な気持ちになるが、同時に感謝も伝えたい。『ありがとう』

工房「羅針盤」利用者 田中利直

拡大中途部会

in 工房ヒューマン

11月17日に初めて拡大中途部会に参加しました。この日は大阪府の4つの中途障害者施設の職員が14人集まりました。

2グループに分かれて、自己紹介から始まり各事業所ではどういった取り組みをしているのか、どんなことで悩んでいるのかなど意見交換をしました。

他の事業所の作業内容は、パソコンで年賀状を作成したり、お店でケーキを作り販売したりなど、各事業所独自の様々な取り組みがありました。その中で、より良い支援をおこなうためには、どうすれば良いのか、という内容で話し合いをし、「うちではこういう風にしていますよ。こうしてみたらどうですか?」など、違った視点からのアドバイスをたくさんいただくことができました。

始めはとても緊張していたのですが、初めて参加させていただき、他の事業所の方の声が聞けた貴重な経験となりました。これからの支援に活かしていきたいと思いました。機会があればまた参加したいです。

第2工房「羅針盤」岡本彩音

ありがとう松浦まゆみさん

昨年10月、利用者の松浦まゆみさんがこの世を旅立ちました。長年、羅針盤に通っていたまゆみさんの傍らにはいつも音楽がありました。作業所で、ライブ会場で、そして病室でも…。

そんな音楽をこよなく愛したまゆみさんの遺した、数えきれないレコードと愛用のプレイヤー。まゆみさんとご家族から「ぜひ作業所のみなさんで聴いてほしい」と、羅針盤にご寄贈いただきました。まだ懐かしむには早すぎる思い出が、レコードに針を落とすたびによみがえります。まゆみさん、ご家族の皆さま、本当にありがとうございました。今日も羅針盤には、まゆみさんが残してくれた音楽が流れています。

第2工房「羅針盤」一同



自主製品紹介

SIMPLE&RECYCLE

第2工房「羅針盤」の木工班では、地域の木材店からいただいた材料をリサイクルし、おもちゃやキッチン用品などを中心に作成しています。



【なべしき】

カラフルなタイルをちりばめたオシャレななべしきこれからの季節にピッタリです!

600円 13cm×10cm

お問い合わせは 06-4865-5525 第2工房「羅針盤」までお願いいたします。



台風被害の被害者

昨年は台風に振り回された一年でした。まず8月の台風では、私の故郷の鹿児島県で障害者団体の大会があったため、往復の航空券を予約して出発したが、南九州全域が暴風圏内に入り、飛行機が全便欠航となって立ち往生した。そして、次に被害を受けたのは、10月に近畿地方を直撃した超大型の台風20号。築40年以上の作業所の建物が暴風雨に耐え切れなくなり、屋根の一部が吹き飛んでしまった▼幸い、台風は休日に通過したため、利用者・職員には直接の被害はなかったが、屋根の損傷により雨漏りが発生し、作業室の一部に水溜りができてしまった。すぐに業者に修理を依頼したが、他の多くの建物でも被害が相次いだため、作業所の修理が始まるのは10日後となったのが悲劇の始まりだった。実は次の台風21号が再び同じような勢力で次の週末に向けて、近畿地方に急接近していた。作業所の責任者として、これ以上被害を広げるわけにはいかない。私は使命感を胸に、休日を返上して警戒にあたった▼予想通り、既に壊れかけていた屋根は更なる台風によって大きく損傷し、雨漏りも作業室全体に広がった。雨水を受け止めていたバケツ約40個もすぐに満杯になり、一つずつ排水しては一人で作業室の浸水と闘った。名付けて「一人バケツリレー」作戦だが、その結果、被害を最小限に留め、作業所も通常通り開所することができた。なかなかできることではない。しかし、他の職員は誰も私の苦勞を知らない。だから一人バケツリレーがどんなに孤独で大変だったのか、何度も教えてやっているのだが、職員からは「またその話か」と、うっとうしがられる始末。そうか、私は公私ともに一人ぼっちだったんだと再認識した。今度、ファミレスへ行って店員さんから「お一人様ですか」と聞かれたら、「ずっと一人です」と答えてやる。(山)